

ねっとわあく

2008/10/16 Vol.53

婚活

結婚します。 結婚しません。

親がかり婚

晩嬢

おめでた婚

友だち夫婦

ネット婚

ウェディングノート

自立婚

夫婦別姓

ブライダルチェック

シングルマザー

国際結婚

ジミ婚

DINKS

産休

主夫婚

通い婚

非婚

週末婚

実家べったり婚

マタニティ・ウェディング

電撃結婚

家庭内別居

できちゃった婚

ロマンチック・ラブ・イデオロギー

マスオさん

成田離婚

別居結婚

パックス法

ワーク・ライフ・バランス

仮面夫婦

事実婚

M字形曲線

おひとり様

遠距離結婚

海外挙式プロデュース会社

オーバーステイト

結婚します。
結婚しません。

「結婚しなくちゃいけないんですか」

結婚相手の条件 (%)

結婚(婚約)した理由	全体	男性	女性
性格が合う	74.7	74.5	74.9
家庭を第一に考える	32.7	28.1	36.6
共通の趣味を持っている	29.4	31.1	28.0
収入の安定	27.9	5.6	46.5
金銭感覚が似ている	22.3	18.9	25.1
自分にない性格を持っている	20.8	21.5	20.2
自分を束縛しない	20.1	16.5	23.1
家事ができる	19.2	33.9	6.9
容姿	17.6	25.2	11.3
年齢	10.7	11.2	10.2
自分の親と同居できる	5.0	7.6	2.9
収入が高い	4.2	1.6	6.3
職業	3.6	2.1	4.9
相手の親と別居できる	2.5	0.5	4.1
資産	1.6	0.9	2.1
学歴	1.6	0.9	2.2
自分の家名を継げる	1.0	1.3	0.8
その他	3.1	2.1	3.9
特になし	4.5	6.3	3.0
無回答	0.5	0.3	0.8

男女がそれぞれ結婚相手に求めるものは、昔からあまり変わっていないようにも見えます。右の表からもわかるように「性格が合う」「共通の趣味を持っている」「自分にない性格を持っている」などは男女のパーセントにあまり大きな差がみられません。

一方、「家事ができる」「収入の安定」では、その数字が男女の間で逆転するように、大きな開きが出ています。これは果たして、昔ながらの「男性は働き、女性は家庭を守る」ということを意味しているのでしょうか。

また、生活が多様化し、男女の関係も確かに多様化してきています。しかし、それはイコール「結婚の多様化」なのでしょうか。

今回は、様々な年代、ご職業の方々に話を伺うことにより、これら数字の裏側にかくれている「今の結婚事情」を探ってみたいとおもいます。

(備考) 1. 内閣府「若年層の意識実態調査」(2003年)により作成。
2. 「あなたが結婚する際、結婚相手の条件で最も重視するのは何ですか。既婚の方は結婚した時の条件をお答えください。(〇は4つまで)」という問に対する回答者の割合(複数回答)。
3. 回答者は全国20~34歳の学生を除く男女1,649人。

そんな声が周りから聞こえてきてハッとします。

見渡してみると、

ここ数年で結婚の適齢期も大きく変わり、結婚したあとの男女の役割も変わろうとしています。

かつてこれほど結婚の在り方が多様になった時期があったでしょうか。

そもそも結婚しないのか、できないのか。その背景にある原因はいったい何なのでしょう。

そんなことも今一度時代の中で捉え直してみたいとおもいます。

結婚のさまざまな形を掘り起こし、見渡し、新しい結婚の形や男女の役割を考えます。



キャリアカウンセラーに聞く、
若者たちの結婚観



株式会社キャリア・クリエイト
代表取締役
杉山 孝さん
SUGIYAMA TAKASHI

就職や結婚に 踏み出せない、 思考停止型人間たち

若者がなかなか結婚しない。その理由のひとつとして、派遣や契約社員、アルバイトなど非正規雇用形態で働く若者たちの収入の低さが挙げられています。そこで、キャリアカウンセラーとして多くの若者たちの就職支援を行っている杉山孝さんに、若者の就労形態と未婚率上昇の関連性についてお話を伺いました。

「結婚に関する問題は本業ではないのですが」と前置きしながら、杉山さんは現代の若者が就職や結婚をためらう理由についてこう語ってくれました。「結婚と就職。この二者には共通点があります。それは学生時代までと違い、親や教師がお膳立てしてくれたレールを越えて、自分だけの力で未知の世界へ踏み出す作業である、ということですよ」。

彼らの親世代は、自分たちが歩んできた人生を成功ととらえ、その経験に基づいて子どもたちを失敗から回避させてきたと、杉山さんは分析します。「その学校が無理ならこちらの学校に行けばいい。やりたい仕事があれば、しばらく家にいればいい。何かにつけて親が先回りして道を与えているのです。だから、子どもたちは自分で考えて決断、行動する経験がままに大人になってしまふ」。

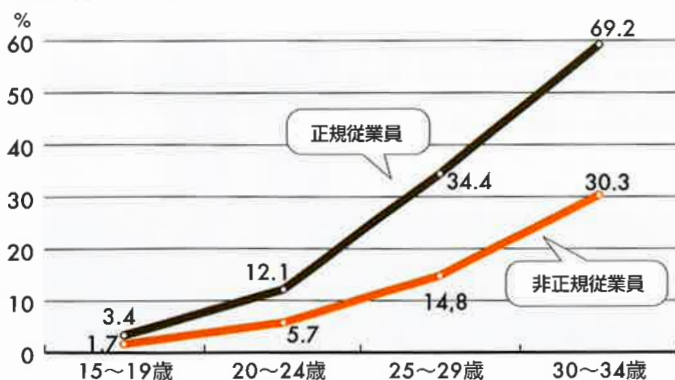
けれども、親世代で通用したことが今の時代にすべて通用するわけではありません。そのため、難しい問題や未知の問題にぶつかると、子どもたちはそれを乗り越えようとせず、思考を停止してしまうのだと。「誰かがどうにかしてくれるだろう、いつかどうにかなるだろう。それがニートやフリーター増加の原因だと私は考えています。未婚者の増加にも同じようなことが言えるのではないのでしょうか」。

「最近是非正規雇用という条件で働く人が増え、彼らは収入が少ないために結婚をあきらめているのではないのか？」という説については、「私は一概にはそう言えないと思いますが、就職活動をしている若い男性の中には、結婚したいから正社員になりたいという人も確かに存在します」との回答をいただきました。

さらに、杉山さん自身が若者に正規雇用で働くことを勧める理由について、「今の時代に非正規雇用から正規雇用への道はとても険しいのですが、それでも私は若い人たちに正社員を目指すことを勧めています。正社員のメリットは収入や安定性ではありません。採用する側の真剣度の違い、任される仕事の重要性の違い、責任の度合いの違いが大きいからです。真剣に選んでもらい、責任ある仕事を任されることによってのみ生まれる自信、養われる実力。それが自分にとってかけがえのない財産となり、さらなる飛躍の礎になると、杉山さんは続けます。これは結婚を決める自信にも通じるものかもしれません」。

「私自身は、成功や失敗をできるだけ多く経験したほうが人生は豊かになると考えています。どれほど多く、深く、自分の力で成功したか、失敗したか。成功も失敗もない人生なんて味気ないと思います」と、杉山さんは昨今の若者の

正規・非正規別の結婚している比率(男性雇用者、2006年)



注：在学者を除く。総務省統計局「就業構造基本調査」から特別集計。
資料：厚生労働省「平成18年版労働経済の分析(労働経済白書)」

経験の少なさに懐疑的な意見を持っています。「でも、現実には経験が少なく、就職や結婚に対して思考停止となる若者がどんどん増えていくと思います。当然、未婚率が上がり、少子化に拍車がかかるでしょう。日本の社会はおかしなスパイラルに突入してしまったようです。この状態が極限まで行かないと、大きな変化は生まれません。ではないでしょうか」。今後は結婚そのもののあり方がさらに多様化し、また結婚という道を選ばない人もっと増えるのではないかと、杉山さんは我々の質問への回答を結んでくれました。

結婚します。

結婚しません。

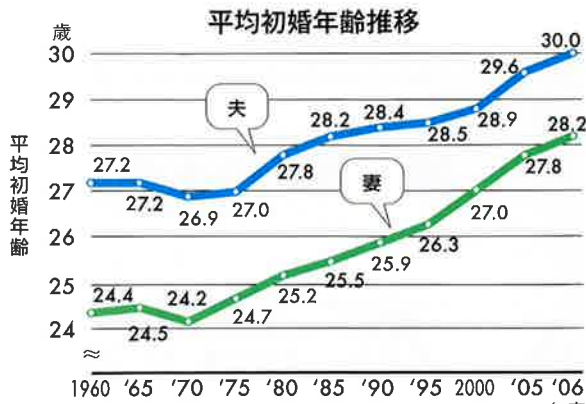
ウエディングプランナーに聞く、
30代の結婚観

恋愛能力の格差が 未婚者を増やしている



フォーション代表
ウエディングプランナー
鈴木 麻起子さん
SUZUKI MAKIKO

最近の結婚の特色は、初婚年齢の高齢化、晩婚化にも見られます。共働き夫婦の増加、女性の経済力向上、高齢出産とも大いに関係がありそうなこの現象について、30代の結婚式を多く手がけているウエディングプランナーの鈴木麻起子さんに、大人カップルの結婚事情について意見を述べいただきました。



資料:「人口動態統計」厚生労働省大臣官房統計情報部
注:2006年は概数による。

フリーのウエディングプランナーとして活躍している鈴木さん。「お客様は男女とも30代以上が多く、共に仕事をもつ自立したカップルが中心。公務員や自営の方が多く、アルバイトや派遣の方はいませんね」。女性の大半が確たる仕事をもっているというのが、30代の結婚の特色のようです。「みなさん大人なので、20代のカップルのように結婚式をビッグイベントとは考えていません。二人の人生の通過点、という感じでクールに受け止めている方がほとんどです」と、鈴木さん。だからといって無関心なわけではなく、あまり派手にした

くない、形式的なセレモニーにしたいくない、お客様に上質のおもてなしをしたい、など大人のカップルならではのこだわりを持っている人が多いとのことでした。

男女とも、結婚前と結婚後のライフスタイルが変わらない、というのもお客様の共通点だそうです。「女性は仕事を続けているし、お互いの趣味の時間も大切にしている。子どもができてそのスタンスは変わりません。どちらかが相手に合わせるのではなく、お互いに相手を尊重しつつ、個人としての自分を失わない。そんなカップルが多いですね」。そのためには経済的な安定も大切な条件となります。「結婚によって今までの生活レベルを下げたくない。特に女性にそういう思いが強いから、収入の少ない男性の結婚が難しくなっているのではないだろうか」。晩婚化の背景には、経済力の問題も確かに大きく影響しているようです。

また「未婚者の増加についてはどう思われますか?」という問いには、「仕事柄、結婚相手の紹介を頼まれることもありますが、なかなか結婚しない方というのは、本当は結婚したいのに何の行動もせず、漠然と出合いを待っているんだと思います」という意見。何の行動もせず王子様、お姫様を待ってい

るうちに年齢的に結婚が難しくなってしまうのだと、鈴木さんは語ります。「恋愛能力の格差というんでしょうか。10代の頃から、告白したり交際したりという経験を重ねている人は、結婚に対して力むことなく、すんなりと進んでいます。反対に恋愛について何の経験もなく大人になってしまうと、何をどうしたらいいのかわからない。だから夢や理想ばかりが膨らんで、自分中心の結婚観を作り上げてしまう。これではパートナーは見つかりません」。

「私自身は、結婚に対して現実的な考え方を持っています。結婚は一人の寂しさを埋めるものではないし、自分を褒めてくれるものでもありません。そういう気持ちで結婚するとうまくいかないことが多いので、まず、自己の自立ができてから結婚を考えるべきだと思います」。日々多くのカップルと接し、自分自身もやりがいのある仕事をもっている鈴木さんの意見です。「そうなる」と、必然的に結婚年齢は上がりますし、結婚しなくても自分の思い通りに生きられる人も増えていくでしょう。ですから、未婚率の増加と晩婚化はしばらくこのまま進むのではないのでしょうか。キャリアアカウンセラーの杉山さんと同じく、鈴木さんも今後の未婚率増加や晩婚化を予測する意見でインタビューをまとめられました。